

### CTとMRIの違い

川口市立医療センター  
放射線科 **三枝 裕和**



CTは、放射線を用いた検査であり放射線被ばくがあります。一回のCT検査による被ばくは安全な範囲ではありますが、撮影範囲・回数などを最小限にする必要があります。CTはMRIに比べ、細かな部分まで明確に観察することが可能です。また、広範囲の検査を短時間で行えることも特徴の一つです。一方で、病変部と正常組織を濃淡(コントラスト)としてはっきり把握するために、造影剤を用いて検査することがあります。CTは速く撮影でき、小さな病気を写すことができます。得意な領域は、脳出血、肺癌や肺炎、尿路結石、腸炎や腸閉塞などが挙げられます。

MRIは、磁力を使う検査なので体内に磁性体の金属が留置されている場合など検査できない場合がありますが、放射線を用いた検査ではないので放射線被ばくはありません。MRIはCTに比べ、病変部と正常組織との濃淡(コントラスト)が明瞭で、病変を検出しやすい検査であり、非造影で血管を描出することができます。一方で、CTに比べ、一度に検査できる範囲が狭く、時間がかかります。また、空気が存在する領域(乳突蜂巣、副鼻腔など)では画像にゆがみが生じる可能性があり、評価困難になることもあります。得意な領域は、早期脳梗塞、骨腫瘍などの骨病変、軟骨・靭帯、動脈瘤等血管性病変、子宮・卵巣、前立腺、膀胱などが挙げられます。

以上のようにCT、MRIにはそれぞれ利点・欠点があります。疑われる疾患により使い分ける場合や、両方の検査が必要な場合もあり、主治医により適切に選択されています。

### 新型コロナウイルスワクチンの副反応

#### ワクチン接種後、すぐに現れる可能性のある症状

##### アナフィラキシー

急性のアレルギー反応で、皮膚の痒み、じんましん、腹痛や嘔吐、息苦しさなどが急に起こります。起こることは極めてまれですが、起こってもすぐに対応が可能ないように、接種会場や医療機関では、医薬品などの準備をしています。ワクチン接種後は15～30分、会場に残り様子をみてください。



##### 血管迷走神経反射

ワクチン接種に対する緊張や強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて、時に気を失うことがあります。誰にでも起こる可能性はありますが、通常、横になってしばらく休めば自然に回復します。

#### ワクチン接種後、数日以内に現れる可能性のある症状

(コモナディ筋注(ファイザー社)添付文書より改題)

発現割合	症状
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛
10～50%未満	筋肉痛、寒寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ
1～10%未満	吐き気、嘔吐

このような症状の大部分は、数日以内に治まります。1回目よりも2回目の方が、頻度が高くなる症状もあります。副反応が生じるのは、免疫反応の現れと考えられ、免疫がきちんとできている証拠とも言われています。

ワクチンの副反応は、接種前の正確な問診と、万が一副反応が起こっても正しく対処することにより、重篤な症状になることは極めてまれです。ワクチンの接種前には、「予診票」で発熱の有無や持病の有無、予防接種によるアレルギー歴の有無などの確認を行いますので、当てはまるものがあれば、必ず医師に伝えてください。

ワクチン接種後(直後から数日間)は、体調の変化に注意し、異常があれば、接種を受けた医療機関、または県の専門相談窓口にご相談し、指示を仰いでください。

#### 埼玉県新型コロナワクチン専門相談窓口

☎0570-033-226 (24時間対応 土・日曜、祝日を含む)

## ワンポイント手話講座

今月は「図書館」を紹介します。「本」と「建物」を組み合わせた表現です。

### 本

胸の前で手のひらを合わせてから左右にパタンと開きます。



### 建物

両手の手のひらを向かい合わせて上げ、中央で合わせて、四角い形をつくります。



#### 障害福祉課

☎048-259-7926

FAX048-259-7943



## 寄り添う心を胸に

川口市人権擁護委員

若林 のり子さん

わかばやし

根っからの世話好きのガキ大将。いつも頼りにされるその存在は、常に人と関わり、人を支えてきた。中学、高校時代は子ども会のジュニアリーダー、社会人になってからは青少年相談員、子育てアドバイザーなど、さまざまな経験を積み重ねた。現在は川口市人権擁護委員、人権保護の最後の砦だ。熱意だけではダメなんです。学びから始まり、経験という財産が今の私を支えています。

父は警察官で、幼い頃から憧れていた。学校の通信簿にも『正義感が強い子』と書かれるほどで、曲がったことが大嫌いな性格だった。高校卒業後、当時珍しかった婦人警察官の募集に飛びつく。無事採用され、警察学校卒業後は、川口駅前の派出所に配属された。多種多様な事案が発生していた川口。ここで世の中の役に立つと決めました。3年後には刑事課で腕利きのデカと肩を並べ、窃盗、恐喝などの凶悪犯に立ち向かう。埼玉県警初の『女性刑事』が誕生した。惜しむ声が多かったが出産を機に警察官を退職し、育児に奮闘する日々が続く。そんなある日、町会の子ども会育成部の誘いがあった。過去の経験を活かせる絶好の機会、水を得た魚のようでした。これを機に、民生児童委員や中学校ボランティア相談員などに携わった。そして、多くの活動が評価され、高い人格・識見が求められる人権擁護委員の要請を受ける。「応対には裏付けとなる学びが必要です」。学ぶ姿勢は決してブレることはない。

人権に関する相談は千差万別。日々、電話は鳴り続ける。「言葉だけではなく、気持ちも聴く。相手に寄り添い、これまで培ってきた経験と学んだことを全て活かす、私の人生の集大成です。自身の持つ全ての力を、人の役に立てる。そんな世話好きの正義の味方は、今日も人々の心に希望の光を灯す。(勝)

